

# 新城市 S 集落における防御と捕獲を組み合わせた獣害対策 – 愛知県新城市 –

- 鳥獣被害防止総合対策事業による集落全体を囲う侵入防止柵を先駆的に整備するとともに、集落ぐるみの維持・管理体制を整えた。
- 愛知県農業総合試験場とわなメーカーが開発した囲いわな「おりべえ」による効率的な捕獲や狩猟免許を有しない集落住民が免許所持者の捕獲活動の補助を行う取組を実施し、侵入防止柵による防御と捕獲活動を両輪で取り組むことにより、地域ぐるみのイノシシ・シカ対策を実践する**モデル的な集落**となった。

## 新城市 S 集落の課題

- イノシシやニホンジカに農地や農作物が荒らされ、耕作意欲が低減したり、交通事故やイノシシに石垣を崩されるといった生活被害も頻発し、対策が急がれていた。
- 平成22年度、新城市及び北設楽郡3町村、JA愛知東、愛知県新城設楽農林水産事務所から構成される地域被害対策協議会が設立され、総合的な対策の実施体制が整えられた。
- 平成23年度に国事業を活用し、集落を囲う侵入防止柵を設置した。しかし、柵で閉鎖できない道路や河川沿いからの侵入により被害が出たため、侵入防止と捕獲を一体的に行う必要があった。



新城市 S 集落の風景

## 主な対策

### ○侵入防止柵による防御の強化

- 平成23年度に国事業を活用し、集落全体を囲う侵入防止柵を他の集落に先駆けて設置。
- 当番制による月1回の点検と、必要に応じた補修が集落ぐるみの活動として定着。
- 点検活動で判明した野生獣の痕跡が集中している地点を重点対策地点として集落内で情報共有し、付近の農地の個別防御や捕獲活動に活用。

### ○囲いわな「おりべえ」による効率的な捕獲

- 平成24年度に、重点対策地点に囲いわな「おりべえ」を設置。
- 普及指導員とともに餌の配置方法等に関する現地調査を行い、効率的な捕獲を実現。



「おりべえ」での餌配置試験

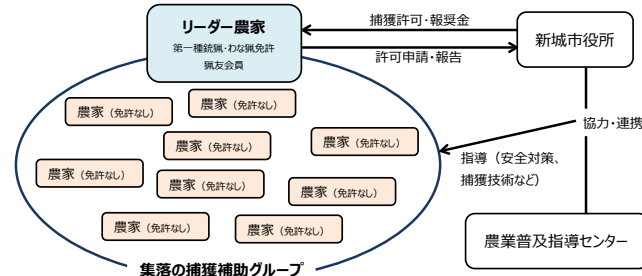
### ○地域ぐるみの捕獲補助活動

- 平成26年度、集落住民が狩猟免許を保有するリーダー農家の捕獲を補助する体制を整備。

## 対策の効果

侵入防止柵の整備とこまめな保守点検による防御と、効率的な捕獲の両方を地域ぐるみで実践するモデル集落となった。リーダー農家は農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーに就任し、その指導力による地域への波及効果も期待される

### ○S 集落における捕獲補助活動体制



### ○新城市におけるイノシシ・シカ・サルの農作物被害額の推移

平成24年度 約3,378万円 (被害額ピーク)

▲89%

平成29年度 約362万円

### ○リーダー農家の声

侵入防止柵の管理を通じた環境点検が対策の礎である。私たちは今日この日の暮らしを少しでも快適にしたいと願い、力を合わせ前向きに取り組んでいる。

# 新城市 S 集落における防御と捕獲を組み合わせた獣害対策 – 愛知県新城市 –

## ◆まずは…

地域の関係機関が危機感を共有し、被害防止計画を作成し、実施体制を整備

## ◆侵入防止柵の防御効果は設置計画で決まる

侵入防止柵は「いわば不動産、建ててしまってから後悔したくない」との共通認識に立ち、地域の合意形成と計画作成を重視

## ◆侵入防止柵の点検で野生獣の動向がわかる

侵入防止柵を地域の共有財産として大切に利用していくため、定期点検を実施。全区間を歩いて見て回ることによって、野生獣の痕跡等が集中する地点が明確になるなど、周辺の状況も把握できるようになった

## きっかけ

- 中山間地域の過疎化、高齢化が深刻化
  - イノシシやコホンジカによる獣害が営農意欲を減退させ、耕作放棄も増加傾向
- …何とかせねば！！

## Step1 (H22) 対策の実実施体制整備

- 新城市及び北設楽郡3町村、JA、県農林水産事務所を構成員とする地域対策協議会を設立
- 農業普及指導センターに鳥獣対策専任の普及指導員を配置

## Step2 (H23) 集落環境点検と侵入防止柵整備

- 集落全体を囲う侵入防止柵整備に向けた住民の合意形成
- 集落環境点検の結果を元にルートを決し、侵入防止柵を設置

## Step3 (H23～) 侵入防止柵の管理体制を構築

- リーダー農家の指導力と普及指導員や市職員による働きかけにより、集落住民の協力体制が構築され、当番制による月1回の侵入防止柵点検と補修活動が定着
- 点検活動により野生獣の痕跡等が集中している地点が明確化・情報共有され、付近の農地の個別防御や捕獲活動に活用

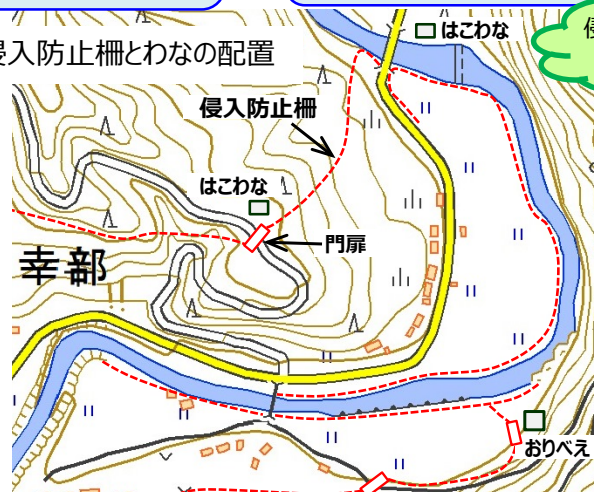
## 取組に当たっての秘訣

- リーダー農家の存在が大きい。頼もしく人望のある人物が地域全体の意欲を引き出す言動は、何ものにも替えがたい推進力となる。
- 侵入防止柵で防御効果を得られるかどうかは、適切な設置計画を作成できるかどうかにかかっている。また、点検活動は施設維持のみならず、環境点検や野生獣のモニタリング手法としても有効である。
- 捕獲については、狩猟免許を有する一部の住民に負担が集中しがちなため、捕獲補助体制整備が望ましい。

## 将来に向けて

- S集落の活動をモデルとした地域全体への取組の波及
- 特産品づくりや耕作放棄防止といった地域営農振興、森林整備などと鳥獣被害対策を組み合わせ、中山間地域の課題解決に向けた総合的な活動を推進

S集落における侵入防止柵とわなの配置



侵入防止柵を設置するも開口部からの侵入が…

捕獲数が増加し、被害も減少

## Step6 (H26～) 地域ぐるみの捕獲補助活動の実施

- 侵入防止柵の中に野生獣侵入が認められた場合に、くくりわなによる緊急的な捕獲を実施することに
- わな猟免許を持たない住民によるくくりわな管理（捕獲及び誤作動の確認）のサポート体制を整えるため、「有害鳥獣捕獲における狩猟免許を有さない捕獲従事者容認事業」による地域ぐるみの捕獲補助活動体制を整備し、運用を開始

## Step5 (H24～) 囲いわな「おりべえ」による効率的な捕獲

- 点検活動等で明確にした重点対策地点へ「おりべえ」を設置
- 効率的な捕獲を目指し、リーダー農家と普及指導員が協力して餌の配置方法等に関する現地調査を実施
- 侵入防止柵及び「おりべえ」周辺の野生獣の動向について、現地踏査とトレイルカメラ撮影により調査し、リーダー農家と情報共有



全区間を歩いて侵入防止柵を点検

取組を経て…